

# 次期計画の評価方法について

令和6年11月7日

# 1 教育委員会評価とは

## 教育委員会評価とは

教育委員会は、平成19年度の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果について、報告書（以下「教育委員会評価」という。）を作成し議会に提出し公表することとされています。これを受け、本市においても平成20年度以降、教育委員会評価を作成しています。

## 現行見本



**2 義務教育 一層かな学力の確保・自己学習力の育成**

**◆ 将来の目標すま-**

- 多様性を尊重し、思いやりにもちあふれた人間関係が構築でき、社会と積極的に関わることができ、豊かな心の育成を目指します。
- 全国学力・学習状況調査結果のほか、各年度独自の取組である、あまっ子ステップ・アップ調査や児童生徒の学習成果の調査結果を踏まえ、本市教育の現状などを分析し、「見守り型 授業改善の視点」を踏まえ実践するなど、指導力の向上を図り、確かな学力の検証を促進します。
- 学力・体力向上の面で、全国平均や他県との比較だけでなく、児童生徒一人ひとりの成長に着目し、自己学習意欲の醸成、困難な課題に対しても、チャレンジできる力の育成を推進します。

**◆ 計画期間内に実施を目指す取組-**

- 「授業改善・学力保証推進チーム」による指導・助言サイクルの継続実施を踏まえ「見守り型 授業改善の視点」のバージョンアップ
- 自由研究発表発表会や同級生発表会を開催し、キャリア教育の充実や多様な活動やステップでの評価機会を設定などをとめ、「中学校段階学力向上の取り組み」の作成
- 基礎学力向上等を目的とした短時間学習における定期的な定着度の確認の実施
- 新学習指導要領への対応に向けた、ALTの配置、英語コミュニケーション力向上推進員など、外国語教育推進の整備
- 児童生徒の体力・運動能力の向上を図るため、全小・中学校での新体力テストの実施
- 児童生徒や教員への体力・運動能力向上に向けた指導を行う運動指導員の全小学校への派遣
- 各種教育施策の成果と課題を踏まえ、踏られた授業時間数の中での、より効果的なカリキュラムへの見直し

**◆ 計画期間内に実施を目指す取組-**

- 学力・生活習慣調査やあまっ子ステップ・アップ調査の結果を分析し、これらと連携した見守り型や研究事例における研究を踏まえ、「知・徳・体」のバランスのとれた授業の実施
- 児童生徒個々の習熟度に応じた課題の課題などができるデジタル教材の活用
- 本市の児童生徒の状況や発達自由の取組を踏まえ、さらなる外国語教育の充実
- 学校教員がすべてが指導や指導可能な指導力向上の取組を推進し、「見守り型 体力向上プログラム」の策定など、児童生徒の体力・運動能力向上に向けた取組（運動ドリル、種目別ウォーミングアップ、伸ばしにくい加算運動など）
- 民間教育事業者との連携など、実践的に導入した新しい教育手法の検証や成果と課題を踏まえた教員研修の実施

1. 資料に用いる数値は公表された数値に基づき、当該数値が公表された年度に当該数値が記載されている場合、当該年度の数値を、Annual Language Teacher の値。

**◆ 確かな学力の保証（小学校）** <主担当課：学校教育課>

目的	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得中、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進する。
取組と成果	個々のつまずきを早期に発見・解消するため、学習支援員の配置や多層指導モデルMMの実施、デジタル学習支援ドリルの活用等により基礎学力の定着を図った。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、指導主事によるチーム活動や授業づくりハンドブックをもととした指導助言、フィードバック資料の作成に取り組みした。令和5年度の「あまっ子ステップ・アップ調査」では、国語・算数ともにD層の割合が25%以下の学年が多い。
課題	令和5年度の「あまっ子ステップ・アップ調査」で、D層は全教科平均で22.8%と、令和4年度とほぼ同じであった。また、主体的・対話的で深い学びに関する項目について特定の困難をきたした児童生徒の割合は、全国平均を△4.1%下回った。調査結果のフィードバックを通じて適切に把握した指導の一層の充実を図る等、D層の割合減少に向けた取組が必要である。
令和6年度の取組方針 (Next Step)	これまでの取組を継続して行うことで、基礎学力の定着、授業の質の改善の両面から学校を支援していく。また、デジタルドリルの積極的な活用により、個別最適な学びを実現する。さらに「主体的・対話的で深い学び」につながる授業力向上を推進するため、講師等へ依頼する取組費や先達者等で実施される研究大会への参加費を支援する。

**◆ 確かな学力の保証（中学校）** <主担当課：学校教育課>

目的	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得中、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進する。
取組と成果	個々のつまずきを早期に発見・解消するため、学習支援員の配置やデジタル学習支援ドリルの活用等により基礎学力の定着を図った。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、指導主事によるチーム活動や授業づくりハンドブックをもとにした指導助言、フィードバック資料の作成に取り組み「あまっ子ステップ・アップ調査」では、国語・算数・英語ともにD層の割合が25%以下の学年が多い。
課題	令和5年度「あまっ子ステップ・アップ調査」で、D層は全教科平均で22.8%と、令和4年度とほぼ同じであった。また、主体的・対話的で深い学びに関する項目について特定の困難をきたした児童生徒の割合は、全国平均を△1.3%下回った。調査結果のフィードバックを通じて適切に把握した指導の一層の充実を図る等、D層の割合減少に向けた取組が必要である。
令和6年度の取組方針 (Next Step)	全教科研究において、統一した指導実践の活用や、指導主事の積極的な関わりにより、各教科研究員の活性化を図る。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業づくりハンドブックをもととした指導助言、フィードバック資料の充実に取り組み。さらに、デジタルドリルの積極的な活用により、個別最適な学びを実現する。

## 2 教育委員会評価の構成（案）

### 現行

- 1 教育委員会評価の概要
- 2 教育委員会の活動状況
  - ・教育委員会の開催日、議題
  - ・総合教育会議の開催日、議題
- 3 教育振興基本計画に掲げる施策の執行状況
  - ・当該年度における主な施策のポイント
  - ・各論1～10における大きな振り返り
  - ・各論ごとにある各施策の振り返り
- 4 総評
  - ・堀田教授、川上教授に依頼
- 5 参考
  - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋
  - ・教育委員会事務局における施策（事業）一覧

### 次期（案）

- 1 教育委員会評価の概要
- 2 教育振興基本計画に掲げる施策の執行状況
  - ・当該年度における主な施策のポイント
  - ・各論1～7における大きな振り返り
  - ・各論ごとにある各施策の振り返り
- 3 総評
  - ・教育振興審議会で審議
- 4 教育委員会の活動状況
  - ・教育委員会の開催日、議題
  - ・総合教育会議の開催日、議題
- 5 参考
  - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋
  - ・教育委員会事務局における施策（事業）一覧

### 尼崎市教育振興審議会の役割

来年度以降、教育振興審議会は、今回策定する教育振興基本計画の進捗確認を主な議題として年に2回程度開催する予定です。各論ごとの施策の振り返り（取組状況や成果、課題など）及び総評について、審議いただき、毎年8月ごろに教育委員会評価を完成させます。

### 3 次期教育委員会評価の様式について（イメージ）

基本的に各論ごと作成

成果指標を作成しているものについて記載

【成果指標数】  
 各論1：8個  
 各論2：2個  
 各論3：4個  
 各論4：4個  
 各論5：2個  
 各論6：2個  
 各論7：6個  
 ↓  
 各論1、7は2枚作成

各論	1	学ぶ力と健やかな体の育成					
①達成状況							
成果指標	全国学力・学習状況調査における平均正答率		単位	ポイント			
目標・実績	目標値	全国平均以上	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
事業成果(達成状況等)			【目標に対する達成状況】 小学校については、国語は全国平均と比較して△1となったものの、数学は初めて全国平均を超える+1となった。 中学校については、国語は全国平均と比較して△3となったものの、数学は初めて全国平均と並んだ。				
成果指標			単位				
目標・実績	目標値		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
事業成果(達成状況等)			【目標に対する達成状況】				
成果指標			単位				
目標・実績	目標値		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
事業成果(達成状況等)			【目標に対する達成状況】				
成果指標			単位				
目標・実績	目標値		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
事業成果(達成状況等)			【目標に対する達成状況】				

②振り返りと今後の取組	
取組と成果	個々のつまづきを早期に見出し解消するため、学習支援員の配置や多層指導モデルMIMの実施、デジタル学習支援ドリルの活用等により基礎学力の定着を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、指導主事によるチーム訪問や授業づくりハンドブックをもとに指導助言、フィードバック資料の作成を行った。令和5年度の「あまっ子ステップアップ調査」では、国語・算数ともにD層の割合が25%以下の学年が多い。 ・〇〇〇〇事業の実施 ・〇〇〇〇事業の拡充
課題	令和5年度の「あまっ子ステップアップ調査」で、D層は全教科平均で22.8%と、令和4年度とほぼ同じであった。また、主体的・対話的で深い学びに関する項目について肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国平均を△4.1%下回った。調査結果のフィードバックを通じて個に応じた指導の一層の充実を図る等、D層の割合減少に向けた取組が必要である。
今後の取組方針(新規・拡充)	これまでの取組を継続し、基礎学力の定着・授業の質的改善の両面から学校を支援していく。また、デジタルドリルの積極的な活用により、個別最適な学びを実現し、さらに「主体的・対話的で深い学び」につながる授業力向上を推進するため、講師招へいに係る報償費と先進校等による研究大会への参加費を支給する。 ・〇〇〇〇事業の実施の検討

各論における取組と成果を記載（令和7年度評価であれば、令和6年度と取組を記載）

各論における課題を記載

各論における課題を踏まえた今後の取組を記載（令和7年度評価であれば、7年度に取り組む内容及び8年度向けに検討する内容を記載）